

研修アンケート

主催者名	静岡県中部健康福祉センター
ご担当者氏名	福祉課 福祉こども班 櫻井優子

※研修期間： 平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月の研修についてお尋ねします。

	研修日	研修タイトル
第 1 回目：	H26. 12. 1	「ボランティアを育てる仕掛けと仕組み ～地域における人材発掘・グループ育成と連携～」

1. 今回のテーマを選ばれた理由をお聞かせください。

各市町における地域包括ケアシステム構築を推進するため、行政担当者や地域包括支援センター職員等が、地域においてリーダーとなり得る人材の発掘・自主ボランティアグループの育成・グループ活動が継続するような支援について、具体的な手法を学び、即実践できるようなイメージが持てるようにするためです。

市町介護予防事業担当者の声として、「行政がお膳立てしてボランティアグループを立ち上げたのはいいけれど、そこから自主活動化まで発展させることができない。」「どうしてもリーダー不在の地域ではボランティア活動が活性化しない。」等々の悩みを聞いてきたことから、「ボランティア育成」をテーマとした研修を実施したいと考えました。

2. 研修を終えて、改善された内容はどのようなことですか？

何より、当圏域（4市2町）において市町行政担当者、地域包括支援センター職員、社協職員、介護予防事業実施事業所職員、主任ケアマネジャー等が一同に会する機会ができ、お互いに顔を合わせて話をする事ができたことが成果でした。

講義では、「地域のプロをいかに本業のままボランティアに仕立てるか」「ありとあらゆる縁を駆使して地域とつながること」「相手の困りごと・目指していることの共通点を探す」「マッチング次第で新たな地域資源になる・・・」等々、ボランティア育成に関する多くのポイントを学ぶことができ、参加者たちが『自分たちの地域でも、やってみようか！』という前向きな気持ちになっているのを感じました。

また、ある市では行政と地域包括支援センターが協力して、地域を歩いて見つけた、行政にも社協にもどこにも所属していない自然発生的に生まれ、有志により運営されている自主活動をリストアップして、マッピングしてみようという動きも出てきました。

3. 研修会を通して受講者の方々がどのように変化しましたか？

研修を受ける前と後で、受講者の変化やエピソードがあれば教えてください。

以下、受講者からの感想を抜粋します。

- ・これから自分がどう動けばいいかヒントをいただいた。
- ・ボランティアに対する意識が変わった。どうやってボランティアを養成するか、よりできる人を見つけるということを大事にしたい。
- ・発想次第で広く展開できるイメージが持つことができた。
- ・ボランティアは無償であることにばかり意識がいていたが、様々な縁を通じてマッチングさせていくことに納得した。
- ・(包括職員)自分が勤務する市町行政の方にも同じ講義を聞いてもらえたのが良かった。
- ・ボランティア育成以外にも、日々の生活で活かせるような内容があった。
- ・地域のプロの技をいかに地域づくりに貢献させるか、その技を活かすマッチングをするか、という思考が新たなボランティア活動のヒントになると思った。

4. 今後、ケアタウン総合研究所に依頼する研修及び高室成幸が提供する研修内容についてご希望、ご意見等あればお聞かせください。

平成 27 年度、静岡県としては「地域ケア会議」に特に力を入れています。各地域で、質が高く効果的な地域ケア会議が開催できるよう、関係者への研修や巡回型の指導を展開していく予定です。

また、地域包括支援センターがより一層あらゆる意味で「地域の要」となっていく中で、その運営を指導すべき市町行政側に対しても何らかのアプローチをしていく必要性を感じております。

高室先生には、またぜひ御指導いただければと思います。

